

モル）并ニ家屋ノ模型等ヲ示スコトヲ得ベシ、但シ彼等ノ爲ス所美ニシテ且整然タルノ點アリト雖ドモ其ノ作業ノ徐遅タルコトハ女子ト相同ジキナリ、最初ノ間ハ彼等ノ疲勞ヲ感スルコト甚シ、蓋終日勞働的ノ事業ニ當ルベキ筋骨ノ練修ナキヲ以テナリ、然レドモ凡ソ二個年ヲ經過スルノ後ニハ馬力ニ比敵スベキ勞業ヲ爲スコトヲ得ルニ至ルナリ、唯彼レ等ノ忍耐力ニ乏シキ事ハ余ガ遺憾トスル所ナリ、要スルニ彼レ等ハ髓部ニテ爲スベキ勞ニハ能ク耐フルコトヲ得レドモ頭部ニ於テ爲スベキ勞ニ勝フルコト甚少ナキカ如シ、是レ彼等ノ白哲人種ト異ナル所ナリ、總シテ有色人種ハ肺臟ノ作用强健ナラズ、是レ外部ノ刺衝ニ感シ易キガ爲メナリ、故ニ体力ノ費耗ハ彼

レ輩ノ爲メ特ニ大害ナリト知ルヘシ

第二十五章 過勞ノ弊害

公立學校ニ於テ免カレザル所ノ弊害一ニシテ足ラズト雖ドモ就中過勞ヨリ生ズル弊害ノ如キハ其ノ甚シキモノナリ、公會ニ於ケル演說者若クハ新聞記者モ亦其ノ害ノ甚シキ所以ヲ論シ、之ガ爲ニ生ズル所ノ苦艱疾病等ヲ頻全指摘スルニ至レリ、輓近ヒトんぞん氏が無罪者ノ虐殺ト云ヘル趣旨ニテ之ヲ痛論セシコトモアリシガ其ノ後終ニ二名ノ生徒ノ死亡セシ者アリシガ爲メ一層世人ノ注意ヲ惹クニ至レリ、其一生徒ハ腦焮衝ニシテ他ノ一生徒ハ自殺ヲ爲セシ者ナリシガ是レ全ク一ハ精神過勞ノ爲メ、一ハ實業上ノ過勞ニヨリテ斯ク痛マシキ結果ヲ

生シタルナリ、此ノ事タル蓋過實ノ説ナランカト思ハルルナリ、世ニハ一身ノ安逸ヲ貪ランガ爲メ事實ニ相違スルコトヲ相傳ヘテ一時他人ヲ驚カサントスル者ナキニアラザレバナリ、然リト雖ドモ兒童ノ保健上ニ關スル得失ハ固ヨリ等閑ニ付シ去ルベカラズ必シモ前記セル事實ノ眞偽如何ニ係ハラズ須ラク保健上ニ注意スベキハ勿論ナリ、体力ヲ練修シテ其强健ノ度ヲ増スノ理ト同シク智力モ亦之ヲ練修スルニ從ヒテ其作用ヲ敏ナラシムルコトヲ得ルモノナレドモ、特ニ兒童ヲシテ過勞セシムルコトハ心力体力上トモニ不利タルコト明カナリ、

とくどるりちあるとをん氏ガ現時生計上ノ疾病ト題シテ輓近著シタル書中ニモ兒童ノ腦髓ヲシテ急劇ニ勞セ

シムルトキハ必疾病ヲ醸スノ根源トナリ、直接ニ腦病ヲ生ズルハ勿論拘攣若クハ癲癇病ヲ誘發スルニ至ルコト幼兒ニ於テ屢見ル所ナリ、假令幸ニシテ此ノ種ノ疾病ニ罹ラザルトモ腦力即チ心意ノ作用ヲ弱ムルハ明カナリ、熟今日ニ於ケル兒童ノ教育法ヲ察スルニ智識發達ノ階梯タルヨリハ寧ロ難澁ナル脅迫的ノ教授ヲ受クルモノノ如シ、加之此ノ惑然ナル弊習ノ他更ニ腦髓ニ對スル所ノ不利益アリ、即腦髓ノ負擔スル所甚重大ナルガ爲メ腦ノ作用ハ速ニ發達シ速ニ固着シテ以テ將來ニ於テハ一步ヲモ進メ得ザルモノ、往往之レアリ、夫ノ幼稚期ニ在リテハ腦ノ作用頗ル俊慧ニシテ世人ノ賞賛ヲ博シ所謂神童トシテ望ヲ属スル者ト雖ドモ成人ニ至ルニ及ビテハ

通常ノ凡夫タルコトヲ免カレザルガ如キ即是レナリ、又
 幼童ト青年者トヲ問ハズ過勞ノ弊害ノ恐ルベキ所以ハ
 即其人終生ノ目的ヲ傷フコトアレバナリ、何トナレバ過
 勞ノ害ノ及ブ所ハ特リ腦髓ノミニ限ラズ全身上ニ影響
 スルコト有ルニ因リ、假令滋養物ヲ食シ清淨ノ衣ヲ着ク
 ト雖モ腦髓ノ過勞ニ伴ヒテ体力ノ疲耗ヲ來ストキハ終
 ニ不健康ナル身体ト爲ルベケレバナリト云ヘリ
 然ルニ實業教育ヨリ生スル實際上ノ利益ハ即心意過勞
 ノ解毒劑トシテ看做スコトヲ得ルニ在リ、實ニ此ノ課業
 ヲ挿加スルガ爲ニ全身ノ各部ヲ勞働セシメ而シテ一機
 關ノミヲ過勞スルコトナキニ至レリ、嘗テ此ノ趣旨ヲ考
 究スベキ爲ニ指定サレタル ほもとん 府學校委員ノ意見

千古
 百言
 朽リテ
 言ザテ

ニ據レバ、手工科ハ心意過勞ヲ療スルノ良方便タリ、蓋此
 ノ科ヲ設クルガ爲ニ無形上ノ作用ト有形上ノ勞働トヲ
 調和シテ其ノ平均ヲ得セシムレバナリト云ヘリ、加之實
 物ヲ取扱ハシメ或ハ之ヲ組立シムルガ如キハ頗ル兒童
 ナシテ興味ヲ感ゼシムルノ益アリ、隨ヒテ枯燥無味ノ學
 課ヨリ生ズル所ノ疲勞ヲ醫スルノ効ナキニアラズ、特ニ
 手ト眼トヲ修練スルニヨリテ生ズル所ノ利益ハ音ニ健
 康ヲ進ムルノミナラズ自活自立ノ氣象ヲ有セシメ人ト
 シテ人タルノ義務ヲ盡サシムルニ足ルベキナリ、ひらで
 る ひら、ほすとん 府等ノ學校ニ於テハ此ノ事ニ就キ世人
 ナシテ満足セシムルノ結果ヲ著ハシタリ、華盛頓 府ノ實
 業學校長ノ言ニ據ルモ該校ノ生徒ニシテソノ名簿ヲ除

カレンコトヲ半途ヨリ乞フ者ハ甚稀ナリト云ヘリ此レ
等ノ事實ヲ對照スルトキハ實業科ノ爲ニ利スル所ハ單
ニ過勞ヲ醫スルノミニアラザルコトヲ知ルベシ

第二十六章 手工場ニ於ケル練修○手工具ノ使用
手工場ノ練修ハ實業上ノ講義ニ伴ヒテ之ヲ授クベシ教
授者ハ腰掛機械、打鍛、鐵砧等ニ就キテ全級生徒ニ一日ノ
課程ヲ授ケ時宜ニヨリ黑板ヲ用フベシ、特ニ緊要ナル趣
旨ニ關シテハ生徒ヲシテ之ヲ筆記セシメ或ハ其雛形ヲ
寫シ取ラシムベシ、疑問ノ起ルトキハ詳ニ之ニ答ヘテ可
及的其思想ニ障礙タルモノヲ除キ去ラシムベシ、斯クテ
全級同時ニ實業ニ着手スルコトヲ許シ教授者ハ必要ノ
場合ニ限り單ニ之ヲ助クルノミノ勞ヲ取ルベシ

一頂進
之者
之者

考案シタル一ノ事業ハ必シモ完了スルヲ要セズ、唯其ノ
主トスル所ハ、理法ニ適セル敏捷ト精緻トヲ以テ其ノ業
ヲ始メ、着着其ノ業ヲ修ムルニアリ、何トナレハ假令速ニ
完了スルモ理法ニ適セザル點アラバ到底真正ノ益タル
所無キヲ以テナリ

生徒ノ固有スル天稟ノ才能ハ講義ノ際ニ於ケルヨリモ
實業上ニ於テ最現ハレ易キモノナリ、蓋實業上ニ於テハ
教科書ヲ用フルニアラズ又豫修ヲモ爲スコトナクシテ
直ニ着手スルヲ常トスレバナリ、多勢ノ生徒ヲ以テ編成
セル學級ニ在リテ一種ノ實業ヲ爲サシムルニ方リ、各生
徒ノ之ヲ完了スルニ要スル所ノ時間ハ人人ニヨリテ非
常ニ長短ノ差アルヲ見ルベシ、是レ即天稟ノ才能ニ異同

アルヲ以テナリ。是ノ故ニ最モ拔群ニシテ最敏慧ナル生徒ニハ特別ノ課程ヲ與ヘ或ハ一步ヲ進メタル實業ヲ爲サシムルモ時宜ニヨリ妨ゲナシ

鍛冶上ニ關スル實業ハ他ノ工業ニ比スルニ一種特異ノ性質ヲ帶ヘルモノナリ。蓋冷鐵ヲ熱スルニハ生徒ガ之ニ對シテ如何ナル實工ヲ施スベキカヲ思慮スルニ足ルベキ相當ノ時間ヲ要スルモノナリ。而シテ一タビ適當ノ熱度ニ達スルトキハ瞬間ノ猶豫ナク間斷ナキ變化ヲ之ニ加ヘザル可ラス。鐵ノ熱氣ヲ失ハザル間ニ之ヲ槌撃スベシトハ不朽ノ箴言ナリ。鍛工ハ特ニ敏捷ナル勞動ヲ要スルト云フモ是レヲ以テノミ。鍛工ハ素人ニ困難ナリト云フモ亦是ヲ以テナリ。

此ノ困難ヲ減ゼンガ爲ニハ鉛片ヲ以テ鐵ニ代用シ徐ニ之ヲ把持シ徐ニ之ヲ槌撃スルノ方法ヲ指教スルヲ可トス。鉛ハ柔軟ナル鑛物ナルガ故ニ唯鑄合ノ一作用ヲ除クノ外ハ熱シタル鐵片ト少シモ異ナル所ナク能ク數種ノ鍛工ヲ試ミルコトヲ得ベケレバナリ。是故ニ多クハ鍛鐵法ノ豫修トシテ鉛片ヲ用フルナリ。又金工上ニ於テ最困難トスル所ハ即火力ヲ調フルコト是レナリ。火力ノ種類差別等ハ最多クノ説明ヲ要スルモノニシテ鐵ト薪材トニ關スル經濟上ノ趣旨ノ如キモ亦最熟練的ニ知了スルニアラザレバ不利ヲ蒙ムルコト少カラザルナリ

各種ノ工作場ニテ現ニ施行セル實業練修上ノ範本ハ如何ナルモノナル歟ヲ問ヒ質ス者少カラズト雖ドモ斯ル

工手
者ノ
右ノ
者ノ
箴坐
ルテ

質問ハ斷然排斥スルモ敢テ不可ナカルベシ抑モ手工具
ヲ使用スル目的ハ特ニ一種ノ摸造物ヲ製出スルニアラ
ズシテ手工具ヲ自在ニ運用スベキ熟練ヲ得セシムルニ
在リ而シテ手工具ノ使用法ハ豫メ一種ヲ以テ之ヲ示スベ
キニアラズ自ラ種種ノ運用ヲ試ミテ始メテ之ヲ會得ス
ルキニト猶銀行ノ計算上ニ係ハル智識ヲ得シニハ種種
實地上ノ取引ニヨリテ之ヲ會得スベキガ如シ蓋一個ノ
凡例ナルモノハ之ヲ以テ萬般ノ場合ヲ律スベカラザル
ニ因リ貴重視スベキ効果アルモノニアラズサレバ良教
師タル者ハ同一ナル方法ヲ再三反復シテ教ヘザルヲ常
トスルナリ

手工科ノ目的トスル所ハ必シモ某物ノ製法ヲ徹頭徹尾

指教スルニアラズ事業ノ一部分ニ關スル方法ヲ練修ス
ルニ在リ例ヘバ教師ガ木工ノ業ヲ教ヘントテ生徒ヲシ
テ木片ヲ鋸截ラシムルニ腰架ノ上ニ於テ爲スベシト命
ズルモ生徒ハ檣脚上ニ於テ之レヲ爲サントスルニ方リ
教師之ヲ矯正スルモ生徒ハ之ニ從ハズシテ云ハン斯ク
爲スニアラザレハ此ノ事ヲ能クスルコトヲ得ズト其ノ
際教師ハ之ニ答ヘテ汝能ク之ヲ爲シ得ルニ至ルマデハ
必其ノ法ヲ守リテ爲シ遂グヘシト云ハバ則足レリ要ス
ルニ手工具ノ試用法ヲ指教スルニハ物料ノ種類生徒ノ
年齢生徒ノ思想才能等ノ如何ニヨリテ異同ナキヲ得ス
是故ニ一律ヲ以テ之ヲ指示シ難シト云フ所以ナリ
最初ヨリ手工具ヲ生徒ニ付與スルハ宜シカラズ須ラク

其ノ要求スル場合ノ必要ニ臨ミテ全級ノ者齊一ニ之ヲ付與スベシ木工上ニ要スル器具ハ斧鋸鋸鋼鐵製ノ曲尺、牝牡鈕ヲ有スル曲尺、線界尺、木槌、兩脚規、砥石、狗索、利器、起重器、仕揚鉋、鑿、半圓鑿、定規、小刀、槌等ナリ、蟻蝗絆、細鑽、小木匠用ノ鉋、兩脚規付ノ鋸、手斧等ノ如キモノハ之ヲ工作場ニ備ヘ付ケテ必要ノトキ之ヲ使用セシムヘシ、鋸鉋ハ曲尺及半圓鑿ト共ニ手工具ノ基本タルモノニシテ其ノ用最廣シ、是故ニ兒童ヲシテ之ヲ使用セシムルコトヲ教フルニハ必一律ナル方法ヲ避ケ種種ニ變化應用スルコトヲ知ラシメザル可ラズ、先ツ鉋ニテ木片ヲ清ラカニ削ルコトヲ得セシムル次ニ之ヲ真直ニ鋸截ルコトヲ教ヘ、漸ク之ニ熟スルニ至ラハ更ニ鑿ヲ用ヒシメテ簡單ナ

ル穿孔法ヲ陳習セシムベキナリ、尙此ノ外種種ノ雛形ヲ兒童ニ付與シテ普通慣行ノ組立法ヲ會得スルノ便ニ供スベシ

同一ノ工具例ヘハ鉋ノ如キモ其ノ形ノ異ナルニ從ヒテ之ヲ使用スルノ方法ト注意トノ異ナル所以ヲ説キ、或ハ各種ノ工具ヲ使用セシムルノ順序ヲ論ジ、或ハ不整不充分ナル物料ヲシテ完全ナルモノニ構製スルガ如キ方法ヲ指教センニハ更ラニ一部ノ書卷ヲ爲スニ足ルベシ、願フニ善良ノ事業ヲ爲スニハ銳利ノ工具ヲ要スルコト人皆知レル所ナレドモ銳利ノ工具ヲ以テ善良ノ事業ヲ爲スハ最容易ナラザルコトヲ知ルベシ

版權登錄

明治廿二年四月十八日印刷
同年同月廿六日出版

(手藝教育論) 定價金九拾錢

著作者 峯 是二郎

東京麴町區有樂町壹丁目五番地

發行者 原 亮三

同日本橋區本町三丁目拾七番地

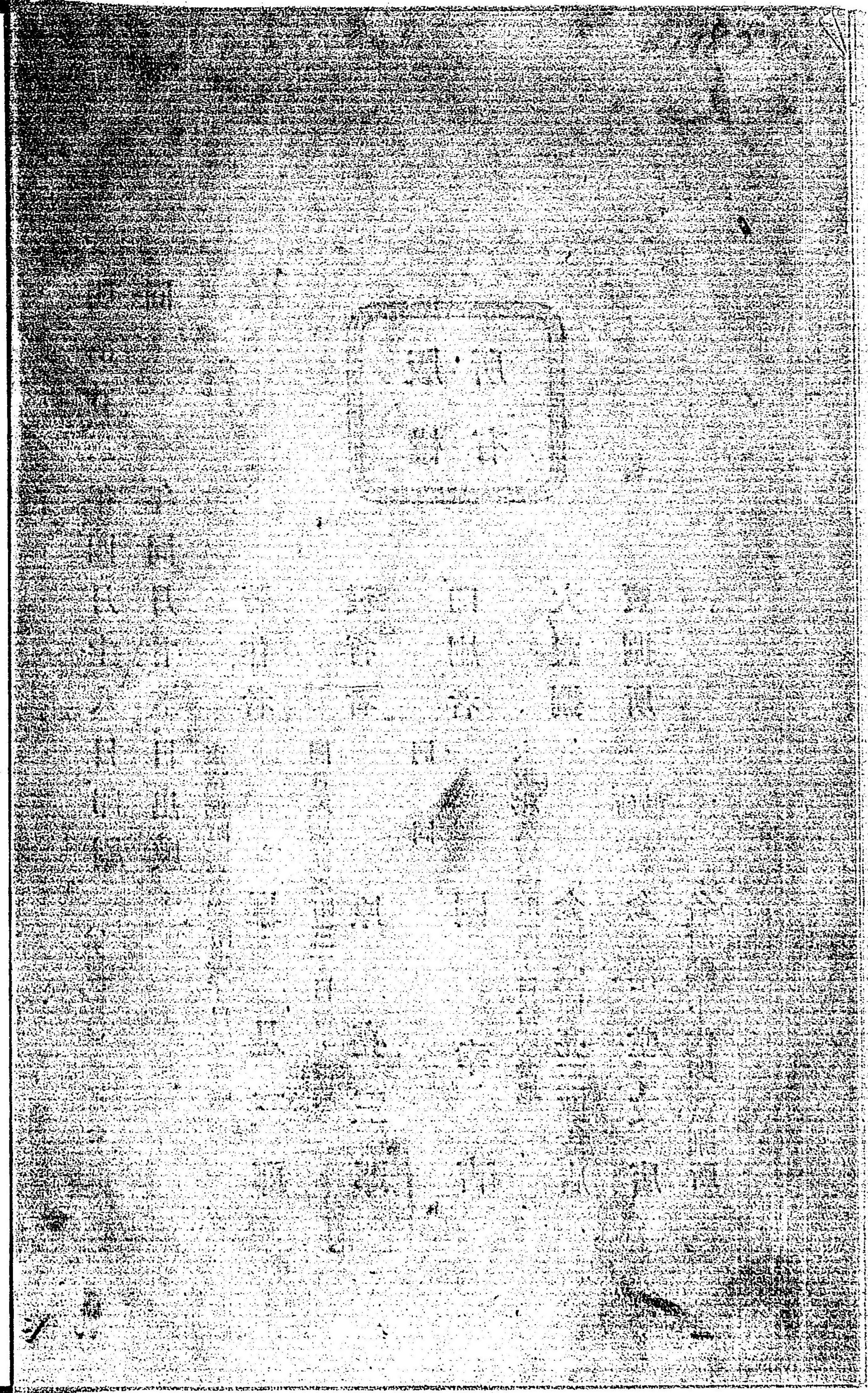
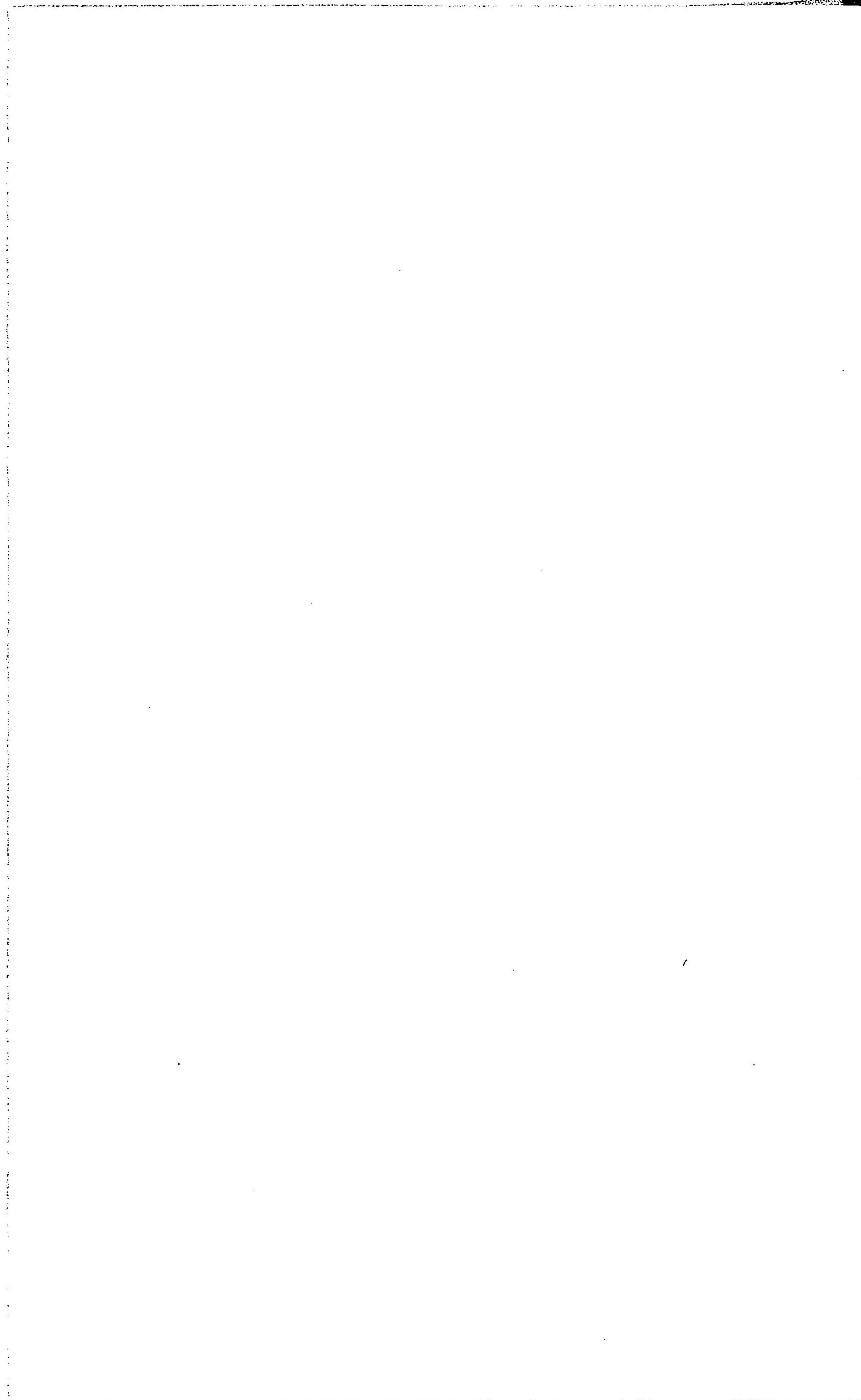
印刷者 關 幸吉

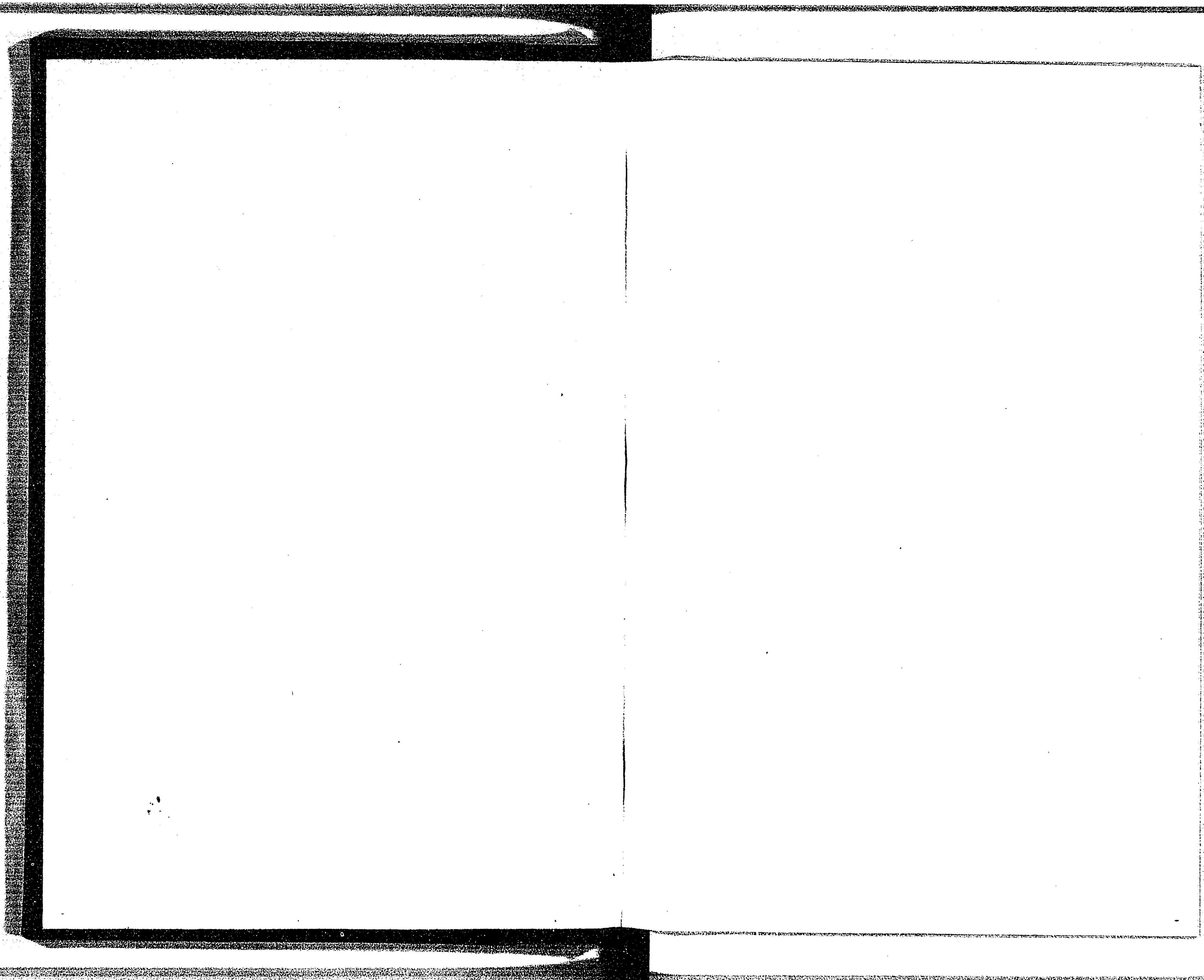
同 同

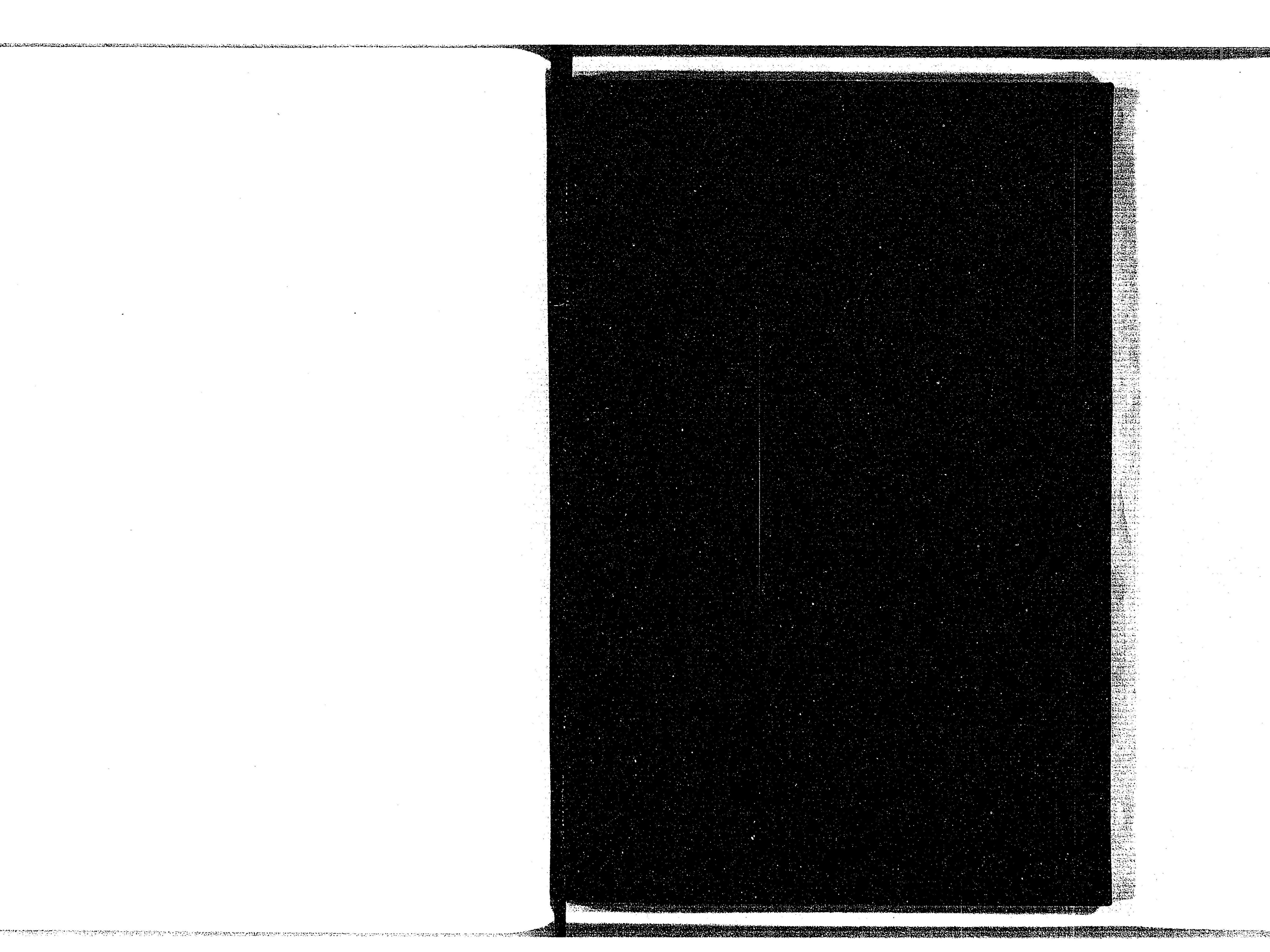
大賣捌 大坂北久寶寺町四丁目拾貳番地

賣捌所 仙臺 金港堂支店
岐阜 各府縣下代理賣捌所









048401-000-4

292-3

手芸教育論

アーサル・マックアーサル/著

M22

BEG-0041



